

# きょういく・さど

平成20年3月5日

第5号

佐渡市教育委員会学校教育課

## 「生きる力」を

### 「生きるよろこび」に

教育長 渡邊 剛忠

今年度スタートした「きょういく・さど」も最終号（第5号）を迎えた。多忙な中での発行、関係者の熱意・努力に感謝したい。

佐渡の児童・生徒のこの1年の変容はどうだっただろうか。我々もまた各校とともに振り返ってしっかり反省してみたいと思う。

新学習指導要領の告示が年度内と聞く。引き継がれる「生きる力」が審議の過程で話題となっていた。考える力を重視するOECDが求める人間の重要な能力も、一昨年、そして昨年改正された教育基本法、学校教育法にうたわれた理念もまさにこの「生きる力」であったように思う。これまでの「生きる力」は「自ら学び、自ら考える力」と言われてきたように、児童・生徒の自主的、自発的な意味にとらえられていた。これに対し、今改訂では、基礎・基本をしっかりと学び、これらを活用する思考力や判断力、表現力が重視され、教師の指導性と児童・生徒の自主性・自発性とのバランスをどうとるのが問われている。

先日、瀬戸内寂聴さんから久しぶりに便りが届いた。その寂聴さん、かつて「生きるよろこび」と題して行われた佐渡での講演で、児童・生徒に「想像力」を身につけて欲しい、そのためには幼少の頃からの読書の習慣が大切であると説かれていた。辞書には「想像」とは「実際に経験しないことやできないことを、心の中で思い浮かべること、既知の事実・観念を材料として、新しい事実・観念を作るはたらき」とある。人をいじめるとその先どうなるだろう・・・今、児童・生徒のみならず我々大人も身につけたい力の一つである。

これまでのように「知・徳・体」バランスの取れた教育の実践とともに、「生きる力」を「生きるよろこび」にできるような児童・生徒へのかかわりでありたい。



## 新年度へのスムーズな移行を

管理主事 高野 榮

年度末・年度始めは、子どもたちにとって、進学・進級・学級編制替えなどにより環境や人間関係が大きく変わる時期です。また、これらのことで精神的に不安定になりやすい時期です。春を迎えてや長期休業中ということが加わり開放感が増します。

また、教職員の異動や引き継ぎ、新年度準備等で、子どもたちから大人の目が離れやすくなる時期です。

例年のことですが、この時期に無断外泊、家出や深夜徘徊などの問題行動、交通事故の発生や不審者による被害事故の報告も増える傾向があります。

つきましては、次の点を考慮して、新年度の移行がスムーズに進みますよう取組をお願いいたします。

- 1 諸会議は、可能な限り休業中に行い、新年度始めはできる限り、子どもたち同士、教職員と子どもたちとの出会いを大切に、相互の好ましい人間関係を醸成するための活動や学級づくりに努める。
- 2 学時等に開催される校種間の連絡会などにおいて、子どもたち一人一人について情報交換や指導方針の検討を綿密に行い、その後の適切な指導につながるよう、具体性をもった話し合いを工夫する。
- 3 子どもたちの校外での問題行動や卒業生等との交流も含めた不適切な交友関係について広く情報を収集し、適切に対応するため、家庭はもとより地域の関係者や関係機関等と密接な連携を図り、地域と一体となった対応に努める。

新しい学級担任や校務分掌の担当が決まらない等の状況で、子どもたちの指導に空白を作らないよう暫定的な担任や分掌担当等を決めておく等の工夫をお願いします。効果的な指導体制を整備し、学校内外での子どもたちの生活行動の実態を注意深く把握し、全教職員が一致協力して適切に対応するようお願いいたします。

## 特別支援教育の充実

嘱託指導主事 銅 郁夫

各小中学校における、特別な教育的支援が必要な児童生徒への対応は、校内委員会の設置と特別支援教育推進員の指名を行い、各校の実情に合わせた校内指導体制を確立して進めることが大切です。特別支援学級が設置されていない学校においても、校内体制を確立し、学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対応していかなければなりません。

校内委員会の役割は、「特別な教育的支援が必要な児童生徒の実態把握」「『個別の指導計画』の作成」「全職員の共通理解を図るための校内研修の推進」「全校体制で支援を行うための支援方策の具体化」などです。

「個別の指導計画」作成の際、大切にしたい点として、次のようなことがあげられます。

- ・ 過去の原因を探るより、今すぐ取り組めることは何かを考える
- ・ だれが、いつ、どのようにかわるかを明確にする。
- ・ 有効と思われる具体的な対応策をできるだけ多く考える。
- ・ 個人としてのかかわりと、組織としての対応の両方を考える。

交流及び共同学習の推進についても計画の中で、活動内容や方法を明確にして、計画的、継続に行われなければなりません。

それらの計画は、全職員が共通理解し、全校体制で取り組んでいくことはもちろん、学校での取り組みを保護者に説明し共通理解を図ることも大切です。学校では一生懸命取り組んでいるのだが、そのことが保護者に理解されておらず、不信感をもたれたという例もあります。特別支援教育においては、保護者の理解と協力は欠かせません。

特別支援教育推進について、指導の効果だけでなく、校内体制の在り方や職員の協力体制などにも目を向けて評価し、さらに充実した特別支援教育が推進されるよう、改善に取り組んでいただきたいと思います。



## 個人情報管理の自己点検を

管理主事 高野 榮

年度末、年度始めを迎え様々な情報を作成したり、編集したりといった業務が多くなります。個人情報の厳正な管理はなされているでしょうか。児童生徒の成績や住所、電話番号等の個人情報の紛失、漏洩等が懸念されます。個人情報の持ち出しについて校内規程は機能しているでしょうか。

先生方の必携の教務手帳や個人所有のパソコンは個人情報の塊です。車に積んでおいて、盗まれた事案もあります。被害者が加害者となってしまいます。これらを校外へ持ち出す場合は、通勤の途中で買い物や私用を足さないで、自宅に直接帰るなど細心の注意が必要です。守秘義務違反は厳禁です。

個人情報に関するの電子データはパスワードをかけて外部記憶装置（ハードディスクやUSBメモリ等）に保存する。職員室以外に持ち出す場合は管理職の許可を得る。このような個人情報の管理について校内規程に照らして各自、点検を願います。

お知らせ

平成20年度から、教育委員会のホームページに、広報誌「きょういく・さど」を掲載する予定です。広く、保護者や地域の皆様にも読んでいただけるようにと考えています。バックナンバーも閲覧できるようにしたいと思っております。ボタンを見つけたらクリックしてみてください。よろしく願いいたします。

お願い

平成19年度の中学校区訪問が終了いたしました。各校の取組と成果に敬意を表し、感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、平成20年度の訪問計画が、まもなく各小中学校に届けられると思います。よりよい取組を目指して改善点が示されていますので、確認と周知をお願いいたします。

がんばれ！風浪被災地の皆さん

自然の猛威に遭われ、被災された地域の皆さん、一日も早い復興を心から願っております。がんばってください。